

毎日の聖餐で
神と会う



毎日の聖餐で
神と会う

目次

1. はじめに	4
2. 愛	8
第1日 永遠の愛の契約	8
第2日 神と一つになる	10
第3日 十字架の啓示	12
第4日 神とのロマンス	14
第5日 最高の愛	15
第6日 至聖所	16
3. 悔い改め	17
第7日	17
4. いのち—イエスのいのちを受け取る	18
第8日 祈り 1	19
第9日 祈り 2	20
第10日 主の生涯とみことばを思い巡らす 1	22
第11日 主の生涯とみことばを思い巡らす 2	24
第12日 「わたしを覚えて」を实践する 1	26
第13日 「わたしを覚えて」を实践する 2	27
第14日 「わたしを覚えて」を实践する 3	28
5. 共同体	29
第15日 共同体を抱いて歩む—愛と和解によって	30
第16日 共同体を抱いて歩む—とりなしによって	31
第17日 契約の家族	32
第18日 イスラエルを覚える	33
第19日 霊的財産を継承する共同体	35
6. 血潮	37
第20日 暗闇の力に対する守りと勝利	38
第21日 自由	39
第22日 霊的回復	40

7. 癒やし	42
第 23 日 肉体の癒やし	42
第 24 日 心の癒やし	43
第 25 日 復活のいのちと力	44
第 26 日 のろいに代えて祝福を	45
第 27 日 関係の癒やし 1	46
第 28 日 関係の癒やし 2	47
第 29 日 関係の癒やし 3	48
第 30 日 地の癒やし	49
8. 聖餐のための提案	51
9. おわりに	52
附録 1 聖餐に関する聖句	54
附録 2 キリストの血潮に関する聖句	57

毎日の聖餐で神と会う—聖餐日記—

1. はじめに

聖餐は、神からの贈り物であり、喜びです。神との親しい交わりの入り口です。癒やしと回復の生ける泉です。主の似姿に変えられることへの招きです。私は、聖餐のすばらしさを初めて見出したとき、神が私たちにこれほどの贈り物を与えてくださったことに圧倒される思いでした！ さあ、この贈り物を開けて、中身を見てみましょう！

今でも覚えているのですが、私の高校の副校長先生は、自分は毎日聖餐の時を持っていると話していました。私はそれまで、毎日聖餐にあずかるという人に会ったことがありませんでした。なぜ副校長先生はそうしていたのでしょうか？ また別の時ですが、中国のある場所では人々が一緒に聖餐を行いながら数日間を過ごすという話を、ある宣教師から聞きました。私は興味をそそられました。彼らはその数日間何をするのでしょうか？ 私たちが15分で済ますことに、どうして彼らは何日もかけるのでしょうか？ それから何年も経って、ヨハネの福音書6章を黙想していたとき、その理由が分かってきました。それを皆さんに分かち合う前に、聖餐の力に関する話をさせてください。

ある日のこと、私の家にベッドバグ（訳注：ベッドの隙間などを住処とする害虫。トコジラミや南京虫とも呼ばれる）を見つけました。私は不安になり、あわてふためきました。害虫駆除業者が犬を連れて来て検査してくれましたが、ベッドバグが2つの寝室とリビングルームにいることが分かりました。これらの部屋の燻蒸消毒が必要だということになりましたが、その前にクローゼットと戸棚をすべて空にし、服を洗濯しなければならなくなりました。家の中には物がたくさんあったので、それには何日もかかりました！ このことについて主に尋ね求めると、主は、ベッドバグを解決する方法があるが、それは人間の方法ではない、と私に語られました。洗濯と片付けが終わったら、主のシンプルな方法——小さな秘密兵器——を主が私に教えてくださる、とのことでした。3週間後、主はその鍵を教えてくださいました。

「わたしの方法と武器は祈りです。家の真ん中に祭壇を築きなさい。熱心な賛美と礼拝を献げなさい。わたしをたたえなさい。異言の祈りとみことばの宣言をきなさい。聖餐を行いなさい。それは、土地と空間の洗いきよめと純化をもたらします。わたしとの契約を立て直しなさい。この家と家の中にあるすべてのものをわたしに献げなさい。そうすれば、わたしがわたしの家を洗いきよ

めましょう。わたしはどんな偶像も神々も受け入れない。わたしが憎むものを**すべて**取り除きなさい。そのようにして洗いよめを続けなさい。心を込め、集中して礼拝を献げなさい。3つの部屋すべてとリビングルームとキッチンで毎日聖餐を行いなさい。これらすべての場所、つまり家全体に、いつも、わたしの臨在が流れているようにし、わたしへの礼拝があるようにしなさい。そうです、今がその時です！ わたしはあなたを求めています。あなたの時間と注目を求めているのです。この礼拝の祭壇、心というささげ物、わたしとの深い交わりさえあれば、あなたがここに住む間、ベッドバグはあなたの前から完全にいなくなるでしょう。」

主はその通りにしてくださいました！ 私がひざまずいて聖餐にあずかり、泣いて悔い改めた最初の日に、主のすばらしい臨在がやって来ました。それ以来、ベッドバグは完全にいなくなりました。礼拝と聖餐には、土地と空間を洗いよめる力があるのです。

ヨハネの福音書 6 章からの啓示—キリストを食物とする

私が育った教会では聖餐式を月に 1 回行っていました。私たちの牧師はいつもコリント人への手紙 第一のみことばを読んでいました。私たちは、自分の罪を悔い改める時を持ち、その後、感謝をもってパンとぶどうジュースを頂いていました。それは、キリストの「わたしを覚えて、これを行いなさい」の命令に従った、シンプルで聖なる礼典でした。しかし、ある日、私がヨハネの福音書 6 章を黙想していると、聖餐の別の尊い側面を知ることになったのです。

ヨハネの福音書 6 章 51～57 節 「わたしは、天から下って来た生けるパンです。……わたしが与えるパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。……わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物なのです。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり（残る、滞在する）、わたしもその人のうちにとどまります。生ける父がわたしを遣わし、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです。」

永遠のいのちのために、そして主のうちにとどまるために不可欠な、「主の肉を食べ、主の血を飲むこと」（56 節）とは、いったい何でしょうか？ 「キリストのうちにとどまること」は、ヨハネの福音書 15 章に繰り返して出て来るテーマであり、御霊による、実を結ぶ人生のためにイエスが私たちに与えてくださった重要な鍵です。私たちはそのことは知っています。

ヨハネの福音書 15 章 4～7 節 「わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木にとどまっていなければ、自分では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたもわたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。わたしにとどまっていなければ、その人は枝のように投げ捨てられて枯れます。人々がそれを集めて火に投げ込むので、燃えてしまいます。あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。」

では、私たちがキリストのうちにとどまることを可能にする、「主の肉を食べ、主の血を飲むこと」とは何でしょうか？ ご自分の肉を食べ、ご自分の血

を飲むことについてイエスが語っておられる別の聖書箇所はどこでしょうか？ それは、聖餐に関する箇所です。

マタイの福音書 26 章 26～28 節 「また、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。『取って食べなさい。これはわたしのからだです。』また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、こう言って彼らにお与えになった。『みな、この杯から飲みなさい。これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。』」

ということは、聖餐はヨハネの福音書 6 章と関わりがあるということです。私たちが聖餐にあずかるとき、私たちは主の肉を食べ、主の血を飲んでいるのです。そしてそれをする中で、私たちは、永遠のいのちを受け取り、主のうちにとどまるのです。しかし、私たちが主の死と復活の結果を信じ、受け取っているという事実を考えると、聖餐は単なる儀式ではないことが分かります。私たちは、実際に主を「咀嚼する」「ムシャムシャ食べる」「音を立てて食べる」「食べる」「食物とする」と訳されるヨハネ 6:54、56、57 のギリシア語動詞 τρώω「トゥローゴー」の意味) 必要があるのです！ 私たちは、主のいのちとご性質を黙想し、自分の「食物とします」。主のみことばを記憶し、宣言します。そして、自分の霊を開け放って、主の恵み深さと豊かさを受け取り、「食べる」のです！

私はその日、「食べる」ということばにも注目しました。「……わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです」(ヨハネ 6:57)。いのちを保つためには毎日食事をする必要がある、と私は考えました。そして私はその瞬間、私は毎日聖餐にあずかる必要がある、と自分の霊のうちに感じたのです。この日は、私の霊的歩みの新たな始まりの日となりました。私は毎日、パンと杯を通して神に近づくようになりました。こうして、主の驚くべき愛と勝利を思い起こし、主のいのちと力を受け取り、主の似姿に日々変えられています！

今からこの小著で、私の聖餐の体験を分かち合いたいと思います。主を求めるあなたの霊的食欲が、本書によってかき立てられることを期待しています！本書の聖餐の実例はすべて、グループの体験にすることができます。私たちがともに集まるとき、聖餐はさらに豊かなものとなることができます。あなたが聖餐の様々な側面を実際に体験してみることができるようにと、私は、毎日の日記という形式で実例を提示してみました。さあ冒険を始めましょう！ だれか他の人たちと一緒にこれを実践し、宝物を分かち合いましょう！

2. 愛

聖餐の本質は、私たちに対する主の愛です。それゆえ、聖餐は親しい交わりの時、愛の出会いの時です。

第1日 永遠の愛の契約

ある日、パンと杯を用意して主を待ち望んでいると、「永遠の世界であなたと会う契約」ということばが聞こえました。私の目から涙が溢れました。私の愛する花婿イエスが天で私を待っておられる！と気づいたからです。イエスは言われました。「わたしはあなたがたに言います。今から後、わたしの父の御国であなたがたと新しく飲むその日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは決してありません」（マタイ 26:29）。

イエスは「これは……わたしの契約の血です」（マタイ 26:28）と言われましたが、それは、結婚の約束、婚約の儀式のようなものでした。このとき、花婿なるお方は、ご自分の花嫁に愛を約束してくださったのです。主の新しい契約は、永遠の愛の契約です。「わたしの花嫁よ、わたしのいのちを君にあげよう。わたしの永遠の愛をあなたに約束するよ」と。主の愛のしるしは、指輪ではなく、ご自身の血潮でした。イエスは花嫁のために死なれたのです！ 今、私は、聖餐にあずかるとき、このことを思い起こすようになりました。私が主の美しい花嫁であること、そして私たちは、主が待ち、慕ってくださっている、主の美しい花嫁の群れであることを！ 主の民である私たちは、すでにこのお方と婚約関係にあります。輝かしい婚礼の日（黙示録 19:7~8）はまだ来ていません！ 私たちの愛するお方は、私たちを待っておられます。そしてこのお方は、ご自分の契約——私たちに対する愛の契約——に忠実でいらっしゃいます！ 私たちは、この永遠の契約による愛のおおいの下で生きているのです！ 私たちの上に翻る、この方の旗じるしは愛です！

聖餐にあずかるとき、私たちは、花婿なるお方の私たちに対する誓いを思い起こすだけではありません。婚約した花嫁である私たちは、私たちの愛をこのお方に献げる時を持つのです。そして、私たちが神と顔と顔を合わせて永遠を過ごすようになるまで私たちの一途な献身を保ち続けることを、再確認するのです。私たちは自分の誓いを新たに、主のためだけに、再び自分を聖別するのです。聖餐とは、愛する者同士が会い、一つになる、霊と霊の深い交わりの時です。

「麗しい花婿なるイエスさま、あなたの美しい花嫁である私はここにいます。あなたの永遠の愛の誓いを覚え、受け取りながら、私は申します。私はあなたを愛します。私の献身、私の真心、私のいのちをあなたに献げます。あなただけがそれに相応しいのですから。あなたこそ私の心の願いです。あなたを愛します。あなたをたたえます。私のすべてをあなただけに差し出します。」

私の聖餐の体験： 聖餐にあずかりながら、あなたの花婿なるイエスがあなたを待っておられることを思い起こしてください。主はあなたとの契約を守られます。あなたも献身の誓いをしませんか？

第2日 神と一つになる

ある日、杯を持って主を待ち望んでいると、主が語られました。「私の骨からの骨、私の肉からの肉。」神がアダムのあばら骨からエバを造り、アダムのところに連れて来られたとき、彼はその女性について「私の骨からの骨、私の肉からの肉」と叫びました。「**それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。**」(以上、創世記2:21～24)パウロはキリストと私たちとの関係について語る際、同じことばを使っています。主は私たちの天の花婿であられ、私たちは群れとして、主の花嫁、子羊の妻です(黙示録19:7～8、21:9)。私たちは「主の肉と主の骨からの者」であり、主と一体となるべき者なのです(エペソ5:30～32*)！主は、私たちが主と霊的に完全に一つになることを願ひ求めておられます。それは、主が私たちのうちにおられ、私たちが主のうちにいるようになることです。そのとき、私たちはもはや多数ではなく一つになります。もはや二人ではなく一つになります。主のすべてが、私たちのうちに、そして私たちのためになるようになります。主のすべてが、私のうちに、そして私のためになるのです。「結ばれる」の原語を調べると、それはヘブライ語のקָבַץ(ダーバク)です。これは、「ぴったりくつつく」「すがりつく」「固くつかむ」「しっかりくつつく」「結び付けられる」「そばに居続ける」「強く惹かれる」などと訳されることばです。** 主と私たちが一つに結ばれると、主は私たちに、私たちは主にぴったりくつつき、主は私たちに、私たちは主にしっかりくつつくのです！さらに、キリストと私たちとの霊的結合は、男女の親密な結合になぞらえることができます。

「イエスさま、あなたは私たちを『わたしの骨からの骨、わたしの肉からの肉』と呼んでくださいます。私たちはあなたから出たものであり、永遠にあなたと結び付いています。私たちの心と霊は、あなたにすがりつき、あなたにぴったりくつつき、あなたを固くつかみ、あなたにしっかりくつついています。しかしむしろ、あなたのほうが私たちを慕ってくださっているのです！あなたが私たちにしがみついてくださいます！あなたが私たちにぴったりくつついてくださいます！あなたが私たちを固くつかんでくださいます！あなたが私たちを求めてくださいます！あなたがご自身を私たちに結び付けてくださいます！あなたが私たちにしっかりくつついてくださるのです！あなたは決して私たちから離れることがありません！あなたは、私たちにご自分のいのちを与えてくださった、天の完全な花婿であられます！あなたは私たちを聖別し、洗いきよめてくださり、美しく輝くものとしてくださいます！あなたは私たちを愛し、養い、大切にしてください。あなたは私たちを救うために死んでくださいました。そうであれば、あなたはこれからも、私たちを守るため、そして私たちに対するあなたの夢を実現するために、どんな代価でも払ってくださることでしょ！私たちは、永遠にあなたに結び付

き、あなたにつながり、あなたのものであり、あなただけを慕い求める、あなたの骨からの骨、肉からの肉です！ 私たちは杯を頂きながら、このことを受け止め、確認します。輝かしい夫なるお方、私たちはあなたに身を献げ、あなたに完全に従います。ああ、神と一つになるなんて、何と素晴らしいことでしょう！ あなたが私たちのうちにおられ、私たちがあなたのうちにいるなんて！」

私の聖餐の体験：

* エペソ人への手紙 5 章 22～32 節 「妻たちよ。主に従うように、自分の夫に従いなさい。キリストが教会のかしらであり、ご自分がそのからだの救い主であるように、夫は妻のかしらなのです。教会がキリストに従うように、妻もすべてにおいて夫に従いなさい。夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。同様に夫たちも、自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する人は自分自身を愛しているのです。いまだかつて自分の身を憎んだ人はいません。むしろ、それを養い育てます。キリストも教会に対してそのようになさるのです。私たちはキリストのからだの部分だからです。『それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。』この奥義は偉大です。私は、キリストと教会を指して言っているのです。」

** 聖書箇所为例

エレミヤ書 13 章 11 節 「帯が人の腰に着けられる (קִטְּוֹ) ように、わたしはイスラエルの全家とユダの全家をわたしに着けた (קִטְּוֹ) ——主のことば——。それは、彼らがわたしの民となり、名声となり、榮譽となり、栄えとなるためだった。しかし彼らはわたしに聞き従わなかったのだ。」

箴言 18 章 24 節 「多くの友に関わる人は身を滅ぼす。しかし、兄弟以上に親密な (קִטְּוֹ) 友人もいる。」

詩篇 63 篇 8 節 「私のたましいはあなたにすがり (קִטְּוֹ) あなたの右の手は私を支えてくださいます。」

第3日 十字架の啓示

私はこう祈り続けていました。「主よ、十字架の啓示を与えてください。あなたの花嫁に対するあなたの愛を完全に知りたいと切に願います！ それは、私が変わられ、あなたに相応しくあなたを愛することができるようになるためです。」

以前、マレーシアの先住民族の伝統的な民族舞踊を見たことがあります。それは、花婿が、自分の花嫁を守るために喜んで高い代価を払った出来事の一部始終に関するものでした。しかし、完全であられる私たちの天の花婿の愛は、その代価よりはるかに大きなものです！ 全宇宙の造り主なるお方が、人間となり、罪深い人間によって拒絶され、死んでくださいました。これ以上の大きな愛はありません。それは、ちりである私たちを栄光の花嫁に造り変え、王の王、主の主なるお方とともに世界を治めるようにしてくださるためでした！ ああ、何と驚くべき愛でしょう！

私はときどき、聖餐にあずかる際に木の十字架を握りしめ、その感触を味わいます。それは、私の心がイエスとイエスの十字架に近づくのを助けてくれるからです。ある日、主の御思いとつながることを願いつつ、十字架をそっと握りしめていると、突然、ある啓示に圧倒されました。主の愛と、主が私のために支払ってくださった代価に関する啓示でした。私はただ涙を流して祈ることしかできませんでした。「主よ、私の心を取りこにしてください。私の心を柔らかくしてください。私の心をへりくだらせてください。私の心を変えてください……。」

別のある日に十字架を手にしてしていると、このみことばが思い浮かびました。「この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをもともせず**に十字架を忍び……**」（ヘブル 12:2）。私は、イエスが十字架上におられたとき、ご自分が得ようとしている輝かしい花嫁である私たちを見て、私たちを思ってくださいましたのだと気づきました。私たちこそが、主の宝、主の情熱の対象であって、主が最も苦しいときに主を力づけ、立ち上がらせたものだったのだと！ 私は祈りました。「主よ、今度は、あなたが私の喜び、私の宝です。あなたとあなたの十字架を思うと、試練と迫害の中で耐え忍び、勝利する勇気と希望が与えられます！」

また別のあるときは、十字架を握っているとピリピ人への手紙 2 章 5～8 節を思い出しました。

「キリスト・イエスのうちにあるこの思いを、あなたがたの間でも抱きなさい。キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになら

れました。人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。」

「主よ、私にあなたの心を与えてください。私が、あなたが支払ってくださった代価を覚えて、十字架を自分のものとするようにしてください。その栄光だけでなく、その恥をも。それによって、私が自分に死に、あなたを喜ばせるためだけに生きることができるように。」

私の聖餐の体験：「主なるイエスさま、パンと杯を持ってあなたの前に出て、あなたの十字架の啓示を求めます。十字架の上におられたとき、あなたはどうか感じられましたか？ あなたは何を考え、何を感じておられたのですか？」心を静めて、主の応答に耳を傾けてください。

第4日 神とのロマンス

イエスは言われました。「飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい」(I コリント 11:25)。これについてある人はこう言いました。イエスは、愛する相手に自分を忘れてほしくない、情熱的な恋人のようなお方だ。だから、私たちがいつもイエスの愛を思い出すようにと聖餐をお定めになったのだ、と。聖餐にあずかるとき、私たちは、私たちの愛を慕い求めてくださる主の心に引き寄せられているのです。そして、私たちは主にこう言っているのです。「私の愛するお方、私はここにいます。私は忘れません。私に対するあなたの愛を受け取ります。私はあなたを愛しています……。」

私の聖餐の体験：

第5日 最高の愛

ある日、次のことばが思い浮かびました。最高の愛、すべてにまさる愛、比べ得るものがなく、無限で、この世のものでなく、輝かしく勝ち誇る愛。神のご性質は、すべて最高のものです。ある人がそれをうまく表現しました。神のすべてのご性質は、その性質について私たちが知っているどんなものよりも、数百万倍、いや無限に偉大なものだ、と。神の忍耐は最高のものです。それは、私たちが「忍耐」について知っていることや想像できることの100万倍も偉大です。神の聖さは最高のものです。それは、私たちが「聖」について知っていることや想像できることの100万倍も偉大です。神の愛、喜び、平安、大胆さ、誠実さ、知恵、赦しの心、恵みは、すべて最高のものです。それは、私たちがこれらの性質について知っていることや想像できることの100万倍も偉大です。

神の最高の愛とは、どのような愛でしょうか？ それは、ユダがまさにその晩ご自分を裏切ることを知りながら、ひざまずいてユダの足を洗われた際にイエスの心にあった愛です。それは、イエスが十字架の上で次のように祈られた際にイエスの心にあった愛です。「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです」(ルカ 23:34)。それは、「すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍ぶ愛です (I コリント 13:7)。それは、「私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれた」愛です (ローマ 5:8)。

聖餐のテーブルに着き、主の最高の愛を覚えながら祈りましょう。「イエスさま、私はあなたの最高の愛を求めています。あなたの最高の愛によって、私を満たし、造り変え、解放してください。それによって、傷や不義による痛みが消え去りますように。罪の醜さが取り除かれますように。そして私が、あなたの神聖で最高の愛の中で生き、その愛をいっぱい吸い込むことができますように。」

私の聖餐の体験：

第6日 至聖所

イエスは、ご自分の弟子たちと最後の過越の食事をともにしたとき、ご自分こそが神の民に全き解放をもたらす過越の子羊であることを、彼らに示されました。最初の過越はユダヤ人たちを奴隷状態から解放しましたが、神はまだ遠くにおられる存在でした。ただ大祭司だけが、年に1度、宥めの日に至聖所に入って、神の臨在の前に出ることができたのです。神の臨在は、人に畏怖の念を起こさせるものです。しかし十字架により、イエスは、私たちが新しい契約の花嫁となる道を開いてくださいました。今や私たちは、神の臨在のただ中に入り、神との霊と霊の親しい交わりを楽しむことができますのです。何という驚くべき恵みでしょうか！ か弱い人間が、「わたしはある」と言われる偉大なお方と霊的に一つになることができるとは、何という恐るべき特権でしょうか！ 私たちが聖餐にあずかる時間、その一回一回は、主の血潮によって至聖所に入り、顔と顔を合わせて主の御顔を見つめ、栄光から栄光へと変えられる機会なのです。

「……私たちの過越の子羊キリストは、すでに屠られたのです。」(Iコリント5:7)

「こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。」(へブル10:19~20)

「私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」(IIコリント3:18)

私の聖餐の体験：

3. 悔い改め

第7日

聖餐によって十字架の前に出て、主の臨在の中に入ると、多くの場合、私は自分の罪深さを認識し、深く悔い改めずにはいられなくなります。十字架上のイエスを見つめ、主の愛に触れると、私は自分の心の頑なさに気づき、悲しくてたまらなくなります。私たちが悔い改めに導くのは、神のいつくしみ深さです（ローマ 2:4）。悔い改めとは、私たちが自分の罪を認め、罪から方向転換することです。しかし、悔い改めに関わることでもっと重要なことは、神の愛の偉大さと、キリストの血潮の十分さです。ハレルヤ！ 聖餐の中で、主の愛が私たちが悔い改めの場へと引き寄せてくれるのですが、へりくだりと悔い改めの場で、主が、私たちにご自分を満たしてくださるのです！ 私たちが恐れを悔い改めると、主が私たちに主の平安を満たしてくださり、私たちが高慢を悔い改めると、主がご自分の柔和さを私たちに満たしてくださいます！ 驚くべき恵みです！

私の聖餐の体験：あなたがどこで罪に陥ったのか、あなたがどこで主の御霊を悲しませたのか、主に示していただきましょう。

4. いのち—イエスのいのちを受け取る

聖餐とは、私のいのちと引き換えに、キリストのいのちそのものを受け取ることです。

イエスは言われました。「取って食べなさい。これはわたしのからだです」(マタイ 26:26)。「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしもその人のうちにとどまります。生ける父がわたしを遣わし、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです」(ヨハネ 6:56～57)。

「私たちが神をほめたたえる賛美の杯は、キリストの血にあずかること* (共有すること、参加すること) ではありませんか。私たちが裂くパンは、キリストのからだにあずかること* (共有すること、参加すること) ではありませんか。」(I コリント 10:16)

聖餐において、私たちは、悔い改め、自分の罪に対する主の宥めの御業を感謝して受け取るだけでなく、主のみからだを「食べる」ことをしなければなりません。それは、イエスのいのちそのものを吸収し、消化し、自分の存在の深くに受け入れることを意味します。そして、私たちがイエスのいのちそのものによって養われ、主の似姿に造り変えられるようになることを意味します。どのようにしてでしょうか？ それは、祈りと黙想によってです。

*ギリシア語で *κοινωνία* (コイノーニア) : 「交わり」「関わり」「共同体」「聖餐」「共同参加」「親密さ」などを意味する。

第8日 祈り 1

祈りにより、私たちは自分の霊を開いて、主と主のすべてのご性質を受け取ります。深く、ゆっくり呼吸し、あなたの存在の中に主を受け入れる祈りをしてください。

「主よ、あなたのいのち、あなたの臨在、あなたのすべてを、私の霊の深みで受け取ります。あなたの完全な愛、あなたの溢れる喜び、あなたの超自然的な平安、あなたの無限の忍耐、あなたの思いやり、あなたのいつくしみ深さ、あなたの信実さ、あなたの優しさ、あなたの自制、あなたの謙遜、あなたの大胆さ、あなたの心を、受け取り、吸い込みます。私は、主の御霊を——知恵と悟りの霊、思慮と力の霊、主を恐れる、知識の霊を——受け入れます。主よ、あなたを求めます。私の中であなたが大きくなって私が小さくなり、あなたがすべてとなって私がなくなりますように！ 私を最大限まで満たしてください！ もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです！」（ガラテヤ 2:20）

私たちが自分の中にイエスを受け入れるとき、神による交換が起こります。私たちの不安、恐れ、苦々しい思い、頑なさ、高慢は消えてなくなり、主の平安と柔和が取って代わるのです。イエスのようになるよう私たちが自分で頑張る必要はありません。私たちが頻繁に主を食べ、飲むとき、主ご自身が、私たちを養う食べ物となってくださり、私たちは日ごとに主の似姿に変えられていくのです！

私の聖餐の体験：

第9日 祈り 2

祈りにより、私たちは、主の思い、目、耳、口、手、足、心を受け取って、私たち自身のものとしめます。しかしまず、これら一つひとつを洗いきよめ、主のために聖別します。

「また、あなたがたの手足を不義の道具として罪に献げてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者としてあなたがた自身を神に献げ、また、あなたがたの手足を義の道具として神に献げなさい。」（ローマ 6:13）

「主イエスさま、私は、自分自身をあなたのために聖別し、献げます。私のうちに、そして私を通して、あなたが生きてくださいますように。

思い 私の思いをあなたのために聖別します。私の否定的な考え方を悔い改めます。あなたの考え方で考えることができるよう、今、あなたの思いを受け取ります。すべての考えを取り押さえて、あなたに服従させます。あなたの判断力と霊的識別力を受け取ります。すべての偽りを打ち砕く、あなたの真理の御霊を受け取ります。

目 私の目をあなたのために聖別します。心を乱すものをたくさん見たことを悔い改めます。私の視線をあなたに注ぎます。あなたが見るように見ることができるよう、あなたの目を受け取ります。父がなさることを見て、私もそのようにします。

耳 私の耳をあなたのために聖別します。あなたが聞くように聞くことができるよう、あなたの耳を受け取ります。父のみことばを聞いて、それに従います。聞いたとおりに語ります。

口 私の口をあなたのために聖別します。否定的なことばを悔い改めます。力強いあなたのみことば——恵みといのちと真理のみことば——を語ることをできるよう、今、あなたの口を受け取ります。

手 私の手をあなたのために聖別します。あなたがなされたように触れ、癒やし、祈ることができるよう、あなたの手を受け取ります。

足 私の足をあなたのために聖別します。あなたが行かれる所に行くことができるよう、あなたの足を受け取ります。

心 あなたを愛し、あなただけに飢え渴くことができるよう、私の心をあなたのために聖別します。偶像となっていた様々な物事を悔い改めます。偽りの慰めを悔い改めます。あなたのように愛し、感じることをできるよう、今、あなたの心を受け取ります。あなたの願いを受け取ります。イエスさま、どうぞ、

私のうちに、そして私を通して生きてください！」（Ⅱコリント 10:5、ヨハネ 5:19、30、ヨハネ 12:49～50、ルカ 4:22、32、ヨハネ 6:63、へブル 4:12）

イエスは言われました。「取って食べなさい。これは、あなたがたのために与えられる、わたしのからだです。」イエスのいのちから食べ、それによって生きるとき、私たちは、もはや善悪の知識の木からではなく、いのちの木から食べ、それによって生きることになります！

私の聖餐の体験：

第10日 主の生涯とみことばを思い巡らす 1

イエスは、私たちが食べるときには、イエスを——イエスの愛、生涯、みことばを——覚えるべきだと言われました。イエスはこのようにも言われました。「わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです。……わたしがあなたがたに話してきたことばは、霊であり、またいのちです」(ヨハネ 6:57, 63)。私たちが祈り深くイエスの生涯とみことばを思い巡らすとき、私たちは、イエスを食べ、イエスのいのちを受け取ることになるのです。

では、どのように思い巡らしたら良いのでしょうか？ 聖書の出来事の場面を思い浮かべ、その様子を見たり、雰囲気を感じたり、音や声を聞いたりしようとすることによってです。ときには、自分がその中に入り込んで、その登場人物であることを想像してみます。例えば、癒やされた人になったり、癒やされた人の父親になったりしてみるのです。ときには、イエスの立場に自分を置いて、イエスの心や感情を感じようとしてみます。イエスとともに歩いたり、イエスに質問したりもしてみます。常に、聖霊に導いていただき、啓示を与えていただくようにします。

私はときどき、自分が今一番主を必要と感じる特定の領域に焦点を当て、それを「食べます」。例えば、安心感や平安です。私は主のみことばを読み、思い巡らします。あるいは、その領域に関連する、イエスの生涯の中の出来事を読み、思い巡らします。イエスの内側に入り込んで、イエスがどう感じておられたのかを感じ取ろうとしてみます。いかにイエスのご自分のご性質どおりに生きられたのかを感じ取ろうとしてみます。イエスの思いと心を感じ取ろうとしてみるのです。

安心感 「イエスさま、あなたはいつも、ご自分が御父に愛される御子であることをご存じでした。ご自分が御父に大きな喜びをもたらしていることを(マタイ 3:17)。あなたは、ご自分について、とても安心しておられました。あなたは人を恐れませんでした。私もそうなりたいです。あなたのいのちそのものを表すこのパンを頂きながら、自分が御父に愛されている子であることについて、あなたと同じ確信を受け取ります。御父は私を喜んでくださっているのだと！ あなたは御父の愛の中で安心しておられたので、拒絶と敵対に直面することがおできになりました。あなたは人を喜ばせる必要がありませんでした。あなたは、パリサイ人たちが認めないと分かっている、安息日に手の萎えた人を癒やすことを恐れませんでした(マタイ 12:9~14)。すごい！ 私にはそれが必要です！ 正しいことを行って、人を恐れない、あなたの強い安心感と勇気を受け取ります！」

平安 「イエスさま、あなたは私のうちに生きておられる平和の君です。あなたはおっしゃいました。『わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません』(ヨハネ 14:27)。あなたの超自然的な平安を受け取ります。あなたからの天のシャロームの平安が、私のすべての細胞、そして私の存在のすべての部分——肉体、たましい、霊——に満ち、染み渡りますように。あなたの超自然的な平安を体験し、呼吸します。私は思い出します。ナザレのあなたの同胞があなたに対して憤り、あなたを崖から突き落とそうとしたとき、あなたはとても平安に満ちていて、怒った群衆のただ中を通り抜けて、去って行かれました(ルカ 4:28~30)！ 今、その平安を受け取ります。弟子たちとともに乗った舟が嵐の中で沈みそうになっているとき、あなたは平安だったので、眠ってしまわれました！ 怖がっている弟子たちがあなたを起こしたときも、あなたは平安に満ちておられました。あなたはただ、『黙れ、静まれ！』と命じられました。すると嵐は止まりました(マルコ 4:39)。あらゆる嵐に打ち勝つあなたの平安を受け取ります。今それが私の心を支配するようにしてください(コロサイ 3:15)。私は、あなたの超自然的な平安を携え、今日行くすべての場所にそれをもたらします！」

私の聖餐の体験：聖餐の中で主を覚えながら、あなたに今必要な、主のご性質——具体的なご性質——を考えてください。主は、いつ、どのようにそのご性質を表されたのでしょうか？ 主を取って、主から食べましょう。

第 11 日 主の生涯とみことばを思い巡らす 2

私はときどき、シンプルにこう尋ねます。「主よ、私がこのパンと杯をあなたから受け取るとき、今日はあなたについて何を私に思い出してほしいですか？」

ナインのやもめ

あるとき、主は、ルカの福音書 7 章 11～16 節のナインのやもめの出来事を黙想するよう私を導かれました。「主よ、息子に先立たれたやもめに対するあなたのあわれみの心を感じます。あなたが御父に目を注ぎ、耳をすますのが見えます。そして、あなたが全き信仰をもって、この青年によみがえるよう命じるのが見えます！ とても自然な様子です。最高の愛、御父との最高の一体性、最高の信仰。主よ、あなたは、全く異なる次元とレベルのいのちと存在の中に生きておられます。私もそうになりたいです。主よ、私を造り変え、その次元とレベルのいのちに至らせてください。そうして、あなたにあって、あなたとともに歩ませてください！」この黙想の中で、私は、主ご自身を私の霊の食物としていたのです。私はその日、満たされ、満足し、満腹するのを感じました！

ペテロ

別のある日、主は、ペテロの視点に立つよう私を導かれました。私は、イエスが復活された後、ペテロが主を思い出しながら再びパンを裂いている姿を想像しました。ペテロは何を思い出していたのでしょうか？ 私は目を閉じ、自分がペテロであると想像し、彼の記憶をたどってみました。

「.....私は、まずイエスが、『深みに漕ぎ出し、網を下ろしなさい』と私に言われたことを思い出します（ルカ 5 章）。私は主の栄光を見て、すべてを捨てて主に従いました。私たちが主と一緒に変貌山に登ったときのことを思い出します。そして、主のまばゆい栄光を見、こう聞いたことを思い出します。『これはわたしの愛する子。彼の言うことを聞け。』主がパンを裂き、『わたしを覚えて、これを行いなさい』と言われたときのことを思い出します。（涙が流れます。）イエスが私の足を洗われたことを思い出します。主の優しいタッチを再び感じます。十字架上の主を思い出します。ひどい苦しみの中で、こう叫ばれたことを。『父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。』（涙がさらに流れます。）主が私に言われたことばを思い出します。『あなたはわたしを愛していますか？ 私の羊を飼いなさい。』（涙がその上さらに流れます。）

主よ、私はあなたを思い出します。あなたの愛、あなたの力強さ、あなたの清らかさ、あなたの優しさ、あなたの聖さ、あなたの威厳、あなたの謙遜、あなたの微笑み、あなたの涙、あなたの苦しみ、あなたの真理のみことば、あな

たの恵みのみことばを思い出します。私の主、私の友、私の待ち望む花婿、私はあなたを思い出します。」

今回も、私はイエスご自身を食物としていたのです。私の心は、切望と憧れによって力強く主に引き寄せられました。

私の聖餐の体験：こう尋ねましょう。「主よ、私がこのパンと杯をあなたから受け取るとき、あなたについて今日は私に何を思い出してほしいですか？」

第12日 「わたしを覚えて」を实践する 1

パンと杯を頂きながら、ペテロかヨハネの視点に立ってください。そして、最後の晩餐の席で、パンと杯を取るよう直接あなたに言われたときのイエスを思い出してください。

私の聖餐の体験：

第13日 「わたしを覚えて」を实践する 2

パンと杯を頂きながら、今度は、あなた自身の人生の歩みに現れてくださった主を思い出してください。あなたが一番苦しんでいたとき、あなたが一番混乱していたとき、あなたが泣いていたとき、あなたに突破口が開かれたとき、主はどこにおられたかを思い出してください。

私の聖餐の体験：

第 14 日 「わたしを覚えて」を实践する 3

パンと杯を頂きながら、主を思い出し、主が十字架につけられる前のいくつかの場面を迫体験してください。

主はひざまずいて、弟子たち全員の足を洗われました。主は裏切りの口づけを受けられました。主は打ち叩かれ、唾をかけられました。主は十字架の上で「父よ、彼らをお赦してください」と言われました。(ヨハネ 13:1～5、マタイ 26:47～68、ルカ 23:33～46)

イエスの視点に立ってください。主はどう感じておられたでしょうか？「聖霊さま、私が黙想するとき、私をイエスさまの心の中に導いてください。主が感じたことを少しでも感じられるように、主の心をもっと理解できるように、そして、イエスさまの心を受け取ることができるようにしてください。」

私の聖餐の体験：

5. 共同体

聖餐は、キリストのからだと家族をしっかりと受け入れることに関係していません。

コリント人への手紙 第一 10 章 17 節 「パンは一つですから、私たちは大勢いても、一つのからだです。皆がともに一つのパンを食べるのですから。」

使徒の働き 2 章 46 節 「そして、毎日心一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、」

使徒の働き 20 章 7 節 「週の初めの日に、私たちはパンを裂くために集まりました。……」

コリント人への手紙 第一 12 章 27 節 「あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分です。」

聖書は、聖餐を共同体的行為——神の家族が集まり、主のいのちと愛を分かち合うこと——として語っています。それは、大きな喜びと力づけと癒やしの時間となります。私は、自分が一時期教師をしていた全寮制の小さなクリスチャンの学校のことを思い出します。そこでは、毎週日曜日の夜、ともに聖餐にあずかる特別な時間がありました。子どもたちはパンを受け取ると、過去1週間に自分が傷つけた様々な相手のところに行き、赦しを乞うのです。そしてパンを裂いて相手に渡します。それは、交わりと一致が回復されたことを意味しました。だれかを傷つけたということが特になければ、聖霊が導かれる様々な相手のところに行ってパンを分かち合い、お互いを祝福します。そうすると、部屋に喜びと賛美が沸き起こり、楽しいおしゃべりがその後続くのでした。神の子どもたちが主の愛のテーブルに集まり、へりくだって和解し合うのを見ることは、とても感動的でした。

第 15 日 共同体を抱いて歩む—愛と和解によって

個人で聖餐にあずかるとしても、私たちは常に、キリストのからだを覚え、この共同体を霊に抱いて歩みます。

「これは、あなたがたのために与えられる、わたしのからだです。これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。」このみことばを聞くと、私には次のようなみことばも聞こえて来ます。「あなたはわたしの愛に愛で応えてくれますか？ あなたもわたしのためにいのちを捨ててくれますか？ あなたは、わたしのからだであるわたしの民を愛し、彼らのためにいのちを捨ててくれますか？」「わたしが多くの人を赦したように、あなたも赦してくれますか？」私は主に応答し、神の家族への、新たにされた愛と献身の思いをもって立ち上がります。

私の聖餐の体験: 聖餐にあずかりながら、次の問いに応答してください。主は、だれのためにいのちを捨てるようあなたに呼びかけておられますか？ 主は、だれを赦して和解するようあなたに願っておられますか？

第 16 日 共同体を抱いて歩む—とりなしによって

パンと杯を頂くとき、私はときどき、主が私の心に置いてくださる国や民族のことを主の前に述べ、彼らに救い、癒やし、和解、回復を与えるキリストの血潮の力とその十分さを宣言します。キリストのからだの一致を宣言します。ユダヤ人とアラブ人の一致、ユダヤ人と異邦人の一致を宣言します。

エペソ人への手紙 2 章 13～14、16 節 「しかし、かつては遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近い者となりました。実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、……二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。」

私の聖餐の体験：「主よ、聖餐にあずかるとき、どの国や民族のことをあなたの前にとりなし祈るべきでしょうか？」

第 17 日 契約の家族

エペソ人への手紙 2 章 13～15、18～19 節 「しかし、かつては遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近い者となりました。実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、……この二つ（ユダヤ人と異邦人）をご自分において新しい一人の人に造り上げ……このキリストを通して、私たち二つのものが、一つの御霊によって御父に近づくことができるのです。こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。」

私たちは、主の血潮による契約の家族です。聖餐にあずかるとき、私たちは、自分が神の一つの家族に属していて、決して独りではないことを、あらためて宣言しているのです。私たちの教会ではしばしば、聖餐をともにしながら、あらためて家族としての契約を互いに結びます。教会の家族を自分自身のものと認識し、愛の家族として歩んで行くために、再び自分自身を献げるのです。私たちは、何ものも——どんなに気分を害することも、どんな困難も——私たちを引き離すことはできないと宣言します。私たちはこれからもずっと一つです！と。初代教会のときのような迫害に今直面しているクリスチャンたちは、ともにパンを裂くだけでも犠牲が必要です。それは、互いへの全面的な信頼と、互いのために自分のいのちを捨てる覚悟が求められるということです。

私の聖餐の体験：神の家族とともに聖餐にあずかりましょう。そして、最後まで互いに愛し合う、まことの契約の家族となるよう、自分自身を献げましょう。

第 18 日 イスラエルを覚える

イエスが聖餐を定められたのは過越の祭りの時でした。なぜなら、イエスこそ、ご自分の民イスラエルに完全な解放をもたらす究極の過越の子羊であられるからです。

「主よ、あなたはかつて、過越のときに子羊の血を通してご自分の民を救われました。今、永遠の子羊なるお方の血の契約によってあなたの民がおおわれ、彼らが救われますように！」

ある日、聖餐にあずかっていると、私は、イエスがユダヤ人であられたというのを思い出しました。主は、ユダヤの文化の中にどっぷりつかって、その中に生きておられました。主が小さな子どもとして成長されたとき、主の周りの人々、景色、音、匂いはみな、ユダヤのものでした。主は、毎週の安息日と毎年の例祭を祝っておられました。主は、ユダヤの食べ物を食べ、ヘブライ語の聖書を暗唱しておられました。最初の弟子たちは、みなユダヤ人でした。「…福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です」（ローマ 1:16）。「主よ、このパンと杯を頂きながら、あなたの愛するあなたの同族ユダヤ人のために祈ります。彼らが、あなたを自分たちのメシアと知り、このパンと杯を愛するようになりますように。主よ、私はこのパンと杯を頂きますが、これを頂くことをまだ知らないユダヤ人たちのことを思いつつ頂きます。あなたのみからだは、彼らのために裂かれました。あなたの血潮は、彼らのために流されました。あなたが、ご自分の苦しみに対する全き報いを受けられますように！」

別のある日、聖餐のパンを頂くとき、私は、聖所に置かれた臨在のパンを思い出しました（出エジプト 25:30）。パンは全部で 12 個あり、6 個ずつ 2 列に置かれ、毎週の安息日ごとに新しいものに取り替えられていました（レビ記 24:5～9）。イスラエルの十二部族は主の臨在を食物とする必要がありましたが、選ばれた代表者である祭司たちだけがこのパンを食べることができました。祭司たちだけが聖所に入って奉仕することができ、民の他の人たちは聖所の外の庭だけで礼拝することができました。しかし、イエスが確立された新しい契約においては、信じる私たち全員が新しい祭司となります。私たちは、主の臨在の中に入り、主を食物とすることができます。実際、臨在のパンはイエスを指し示しているのです。イエスは、私たちの飢えと渇きを永遠に満たすことができになる、天からのまことのパンであります。

「主よ、いにしえからのあなたの民は、あなたを食物とすることについて知っていました。彼らは山に登り、あなたの臨在の中で、あなたのいつくしみと栄光を食べたり飲んだりしました（出エジプト 24:9～11）。あなたの臨在が、昼

は雲の柱、夜は火の柱という形で、幕屋の上に明確に顕れていました。祭司たちは、聖所にあった、聖別された臨在のパンを食べていました。主よ、どうぞ彼らが再びあなたの臨在のテーブルに来て、いのちのパンそのものであるあなたから食べ、永遠に満足することができるようにしてください！」

私の聖餐の体験：聖餐にあずかりながら主に尋ねてください。「あなたの愛するイスラエルに対するあなたの心とは、どのようなものなのですか？」

第 19 日 靈的財産を繼承する共同体

ある日、聖餐にあずかっていると、主は私に、主のみからだを頂くことだけではなく、キリストのからだなる教会を受け入れ、大切にすることについても語られました。主は、クリスチャンたちが共同体として、真理と信仰といのちという尊い財産を繼承すること——各家族が、それぞれ自分たちの財産を繼承するように——について語られたのです。しかし、全世界の教会は、各家族よりもさらに大きな一つの家族です。そして、永遠の価値観と真理や、それらの価値観と真理を運ぶ器である尊い伝統を、繼承しています。何よりも、神の家族は、主の生ける臨在と主の御思いをあらゆる世代に伝え、主が来られるまで主の御国を拡大するようと召されています。教会という家族的集団、つまりクリスチャンの共同体は、とても重要です！ ですから、私たちは、これを愛し、大切にしなければなりません。ですから、私たちは、主の臨在と栄光を繼承する共同体、歴史の中で主の目的を繼承する共同体に、参加しなければなりません。すべての時代の、すべての個人とすべての個々の家族は、極めて重要です。なぜなら、私たちは、皆で一緒からだ全体を作り上げているからです！ 私たちが一緒になり、一つになって初めて、私たちは全き姿になるのです！ 靈的巨人たちといにしえの聖徒たちさえ、私たちが完成されることを待っているのです！（ヘブル 11:39～40 を参照）

「アバ、永遠なるお方、イスラエルの神さま、あなたは代々にわたって神であります。私は、あなたとあなたのみからだに自分を献げ、献身します。あなたの永遠のご計画のために。そうすれば、私は、あなたが恵みのゆえに私を加えてくださったシオンの家族とともに歩みながら、安らぎと目的を見出すことができるでしょう。私の使命や召しは、確かに私に関するものですが、私だけに関するものではありません。あなたの小さな子どもである私は、私の小さな役割を果たします。私はみからだの一部です。そして、みからだ全体を自分のものとして所有します。私たちがあなたを愛し、あなたの御思いを探り、すべてにおいてあなたを喜ばせることを選ぶ中で、あなたの民シオンにあなたのみこころが行われますように。アバ父よ、私はあなたのもの、私たちはあなたのものです。父よ、私の心を大きくしてください。私のシオンの家族を自分自身のものと自覚し、もっと愛することができるように。そして、この家族とその中の人々に対し、あなたが喜ぶ態度で関わるができるように。そうです、私の家族をもっと愛したいのです！ 私はまた、あなたの民であるユダヤ人のことを思います。彼らはいにしえの時代からずっと、あなたの真理と目的を繼承する共同体です。ああ主よ、あなたの御霊を彼らに注いでください。私たちを一つにしてください！」

私の聖餐の体験：聖餐にあずかる中で、キリストのからだについての啓示を主に求めてください。「私たちが神をほめたたえる賛美の杯は、キリストの血にあずかること（共有すること、参加すること）ではありませんか。私たちが裂くパンは、キリストのからだにあずかること（共有すること、参加すること）ではありませんか。パンは一つですから、私たちは大勢いても、一つのからだです。皆がともに一つのパンを食べるのですから」（I コリント 10:16～17）。

6. 血潮

最初の過越の祭りでは、過越の子羊が屠られ、その血潮がユダヤ人たちの家の入口の鴨居と門柱に塗られました。この血潮のしるしによって、神の民に属する人々は他と区別され、死から救われ、約束の地に向かって旅立つことになりました。もはや奴隷ではなく、生ける神の息子や娘としてです。

イエスは、私たちにいのちを与えるために屠られた、まことの過越の子羊であります（I コリント 5:7）。それゆえ、私たちは聖餐の中で、主がご自分の血潮で代価を支払ってくださったすべてのもの——赦し、自由、御霊による新しいいのち、神の息子や娘としてのアイデンティティーと権威、守り、勝利、癒やし、その他たくさんのも——を、自分に当てはめることができます。聖餐にあずかるとき、私たちは、主が十字架上の死によって成し遂げてくださったことを宣言しながら、自分自身のために用いることになるのです。

「ですから、あなたがたは、このパンを食べ、杯を飲むたびに、主が来られるまで主の死を告げ知らせるのです。」（I コリント 11:26）

（附録 2 のキリストの血潮に関する聖句を参照してください。）

第 20 日 暗闇の力に対する守りと勝利

私たちは、血潮の契約によっておおわれ、守られています。悪魔よ、お前は手が出せない！ 神による血潮の契約が私たちを守っているのだ！ 主は、ご自分の血潮という代価により、主の花嫁である私たちをご自分のために永遠に買い取って下さいました！ 主が私たちのために死んでくださったのであれば、主は最後まで私たちのために戦って下さいます！ いったいだれが、神のものである者たちに手出しできるでしょうか？

ローマ人への手紙 8 章 32～39 節 「私たちすべてのために、ご自分の御子さえも惜しむことなく死に渡された神が、どうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるのでしょうか。だれが、神に選ばれた者たちを訴えるのですか。神が義と認めてくださるのです。だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなして下さるのです。だれが、私たちをキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。……これらすべてにおいても、私たちを愛して下さった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です。私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」

ヨハネの手紙 第一 4 章 18 節 「愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。恐れには罰が伴い……」

ヨハネの黙示録 12 章 11 節 「兄弟たちは、子羊の血……のゆえに竜に打ち勝った。……」

悪魔はキリストの血潮を恐れています。聖餐にあずかるとき、私たちは主の血潮という防護カバーを作動させるのです。悪魔は近づくことができません！

私の聖餐の体験：

第 21 日 自由

へブル人への手紙 12 章 22～24 節 「……あなたがたが近づいているのは、…
…新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る、
注ぎかけられたイエスの血です。」

へブル人への手紙 10 章 14 節 「なぜなら、キリストは聖なるものとされる
人々を、一つのささげ物によって永遠に完成されたからです。」

イエスの血潮が物語っているのは、断罪、復讐、さばきではありません。赦
しと自由です！ 主の血潮の契約を表す聖餐の杯を頂くとき、私たちは、自分
が赦され、価値があり、受け入れられ、聖なる者とされ、自由にされているこ
とを宣言しているのです！ もはや私たちには、罪のとがめ、恥、断罪はあり
ません！ 私たちは、神のまことの息子や娘としての栄光を表して生きるよう
解き放たれました！ 私たちは、人を解放するために解放され、人を赦すため
に赦され、人に恵みを与えるために恵みを与えられています！ そうです、主
の血潮はさらにすぐれたことを語るのです！

聖餐の杯をじっくりと頂きながら、私たちのからだの全細胞が、キリストに
ある私たちの姿を喜ぶようにしましょう。主の血潮のおかげで可能となった私
たちの姿を、自信をもって宣言しましょう！

「イエスさま、あなたの血潮により、私は洗いきよめられ、赦され、癒やさ
れ、回復され、あらゆるのろいと束縛と恐れから解放されます！ 私は、愛さ
れ、重んじられ、尊重され、価値があります！ 私は、父なる神の子どもで
あり、私の花婿であられる王の花嫁です！ 私のうちにおられるキリストにより、
私は、油注がれ、力を与えられ、大胆で、賢く、霊的識別力を持ち、優しいあ
われみに満たされ、謙遜で、きよく、愛と喜びと平安に満ちています！ 私は
今日、力強く立ち上がります！ あなたの血潮のおかげで、私は本当の私にな
ることができます！

私の聖餐の体験：

第 22 日 靈的回復

あるとき聖餐にあずかっていると、主が私の心に語りかけられました。「これは、あなたのために流されたわたしの血です。多くの人の罪の赦しのためのもので、あなたの人生の中の**すべての罪**——あなたの罪とあなたの家系の罪——の赦しに関わる、血潮の力をすべて受け取りなさい。」そこで私は時間をかけて、悔い改めをし、それを受け取りました。御霊に身をゆだね、私の内側と私の家系全体を主のきよめの血潮で洗いきよめていただいたのです。

私は次に、私の家系から私の人生に入って来た、すべての罪と罪の結果を断ち切りました。それは遺伝性の病気*を含みます。「私はイエスの力ある御名により、人を支配する霊、人への恐れ、不安症、眼病、糖尿病、認知症.....を打ち砕き、断ち切ります！ 私は、イエスの血潮の、洗いきよめる力と解放する力をすべて受け取ります！」

聖餐にあずかる中で、聖霊の導きにより、イエスの血潮が私たちを洗いきよめ、自分の家族、血統、文化からの否定的な影響を取り除いてくれるようにと祈ることができます。**

私たちは、悔い改めをし、主の血潮で私たちの生まれつきの血統を洗いきよめてくださるよう主に祈り求めます。そして、主の血潮によって自分が完全に神の血統に接ぎ木されたことを受け入れます。私たちは、主のご性質（いつくしみ深さ、あわれみ、きよさ、勇気、靈的識別力など）を生じさせる、神聖な遺伝子を持つ者となりました。つまり、主の神聖なご性質を完全に受け継ぐ者となったのです！

私の聖餐の体験：

* 申命記 28 章と出エジプト記 20 章 4～6 節を読んでください。罪は、数世代にわたって継承されるのろいをもたらします。しかしキリストは、律法を破ったことによるのろいから、私たちを解放してくださいました（ガラテヤ 3:10、13～14）！

** 「ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの、尊い血によったのです。」（Ⅰペテロ 1:18～19）

7. 癒やし

第 23 日 肉体の癒やし

いのちは血の中にあります。聖餐において主の血潮を「飲む」とき、私たちは、主のいのちの本質そのものを受け取るのです。それは、主の神聖ないのちの血潮の輸血を受けて、私たちの不完全な血液と入れ換えることにたとえることができます。それは、洗いきよめと回復と癒やしをもたらします。

「主よ、あなたのいのちの血潮が私のからだの中を循環するようにしてください。そうして私の血を洗いきよめ、最高の健康状態まで回復させてください！ あなたの打ち傷のゆえに、私は癒やされます（イザヤ 53:5）！」

私の聖餐の体験：

第 24 日 心の癒やし

ある聖餐のとき、主は私にこう言われました。「これは、あなたのために与えられるわたしのからだです。あなたの心をわたしに差し出さなさい。いのちの泉はそこから湧くからです。」そこで私は、私の心を主に献げました。主は、それをご自分の宝箱にしまってくださいました。そして主は、それと引き換えにご自分の心を私に与えてくださいました。「これを大切にしてください。これを守りなさい。あなたの内側にいつもわたしの心があるようにしてください。これは完全な心ですから、もし、ほこりが付いたら、払い落とさなさい。わたしの心は、あなたへの愛に満ちています。あなたへの自信と信頼で満ちています。あわれみに満ちています。優しい愛の気持ちに満ちています。この心から、あなたのうちにあるわたしの心から、いのちの泉が湧きます。これを大切にしてください。その中をたびたび見なさい。わたしの心で生きるとき、人生は大きく変わり、あなたは大きく変えられます。これは、あなたの中の『いのちの木』でもあります。わたしの心を別のことばで表現したものです。」

それで、主のみからだを表すパンを頂くとき、私たちは、壊れて傷だらけの私たちの心をイエスに献げ、それと引き換えに、健康といのちに満ちた、主の心を受け取るのです。

「主よ、私は心を入れ替えるためにあなたのもとに参りました。私が根本的に造り変えられるためにです。私は、私の心をあなたに献げます。それと引き換えにあなたの心を受け取ります。あなたの心を、私の存在の中心部に深く埋め込んでください。私の中にあなたの心が、私の中にあなたのいのちが、私の中にあなたの鼓動がありますように！ 生きているのはもはや私ではありません。キリストが私のうちに生きておられるのです！」

私の聖餐の体験：

第 25 日 復活のいのちと力

私はパンと杯を頂きながらこう祈ります。「主イエスさま、あなたは、私にいのちを、あなたのいのちを与えるために死んでくださいました。あなたの復活のいのちが私のからだに流れ、すべての細胞、すべての関節と筋、すべての器官にいのちが与えられるようにしてください。それらを回復させ、活性化させ、生き返らせてください。」

ある日、パンを頂きながら主を思い出していたとき、エペソ人への手紙 1 章 19～23 節のみことばが頭に浮かびました。「……**私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。この大能の力を神はキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上でご自分の右の座に着かせて、すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけでなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました。また、神はすべてのものをキリストの足の下に従わせ、キリストを、すべてのものの上に立つかしらとして教会に与えられました。教会はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです。**」

私たちが用いることのできる力は、復活の力以上のものです。それは、すべてのもののはるか上にある神の右の座にキリストを着かせ、すべてのものをキリストの足の下に従わせた力なのです！

「主よ、私はあなたを食物としながら、**すべてのものをあなたの足の下に従わせたこの力を、自分に当てはめます。私の病はあなたの足の下にあることを宣言します。私は**_____さん（自分が祈っている人）のために宣言し、命じます。あなたの比類なき偉大な力は、あなたを信じる _____さんのためのものです。それゆえ、私は宣言します。_____さんの人生にある、すべての絶望、抑圧、束縛は、打ち砕かれ、イエスの足の下に従わせられます。そして _____さんの霊の人に命じます。立ち上がって、キリストにあるこの比類なき偉大な力を受け取りなさい！」

私の聖餐の体験：

第 26 日 のろいに代えて祝福を

ガラテヤ人への手紙 3 章 10、13～14 節 「……『律法の書に書いてあるすべてのことを守り行わない者はみな、のろわれる』……キリストは、ご自分が**私たちのためにのろわれた者**となることで、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。『木にかけられた者はみな、のろわれている』と書いてあるからです。それは、アブラハムへの**祝福**がキリスト・イエスによって異邦人に及び、**私たちが信仰によって約束の御霊を受けるようになるため**でした。」

マタイの福音書 8 章 17 節 「……『**彼は私たちのわずらいを担い、私たちの病を負った。**』」

詩篇 103 篇 2～3 節 「わがたましいよ 主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。主は **あなたのすべての咎を赦し あなたのすべての病を癒やし**」

聖餐の中でパンと杯を頂くとき、私は、十字架上のイエスを心に思い描きます。あらゆる病というのろい、罪の結果というのろいは、イエスの上に置かれ、そこで終わりになりました。「主よ、あなたは、私から_____ののろいを取り去って、ご自分の上に置いてくださいました。それは、もはや私にとどまる権利がありません。消え去らなければなりません！ それゆえ私は、イエスの御名によって権威を行使し、命じます。_____は、今、私から離れ去りなさい！ 主よ、私はあなたによる_____の祝福を受け取ります。病の代わりに健康を、落胆の代わりに喜びを受け取ります！ あなたの愛を感謝します。あなたの血潮を感謝します！」

私の聖餐の体験：

第 27 日 関係の癒やし 1

私たちが聖餐のテーブルで十字架上のイエスを見上げるとき、心は柔らかくなり、苦々しさは消え去ります。すると私たちはすぐに、聖なる地——深い悔い改め、赦し、和解、回復が可能となる場所——に足を踏み入れることとなります。私たちがともに聖餐にあずかるとき、疎遠だった関係は癒やされ、分裂していた結婚、家族、教会、国は、再び一つになることができます。聖餐は実に、天の癒やしの塗り薬です。

私の聖餐の体験：主に尋ねてください。「私はだれとともに聖餐の時を持ったら良いのでしょうか？ 私は何を言い、何をしたら良いのでしょうか？」

第 28 日 関係の癒やし 2

最近のことですが、主は、一人の親愛なる友人に対する私の心の高慢と頑なさを示してくださいました。私はよく、私たち二人はなぜこんなに違うのだろうか？と考えていました。しかしその日、エルサレムで行われたグローバル・ギャザリングにおいて、サラ（イスラエル人の先祖）を象徴する一人のユダヤ人女性がひざまずいて、ハガル（アラブ人の先祖）を象徴する一人のエジプト人女性の足を洗うのを見たとき、パワフルな何かが私の霊を打ち、私は心の中で泣き出しました。それは、彼女の謙遜な霊と、神からの愛でした。私は気づきました。私の友人との関係を明確に理解する必要はないのだと。私にはただ、へりくだって彼女の足を洗うことだけが必要だったのです。その翌日、主は、完璧なタイミングで、私たちがともに聖餐にあずかる時を設定してくださいました。私は自分の高慢を認めて、彼女に赦しを乞いました。私は彼女の足を洗い、彼女は私の足を洗ってくれました。麗しいことが起こりました。何かが打ち砕かれ、以前にはなかった平安と透明性が、私たちの関係の中に生まれたのです。

私の聖餐の体験：主に尋ねてください。「私はだれとともに聖餐の時を持ったら良いのでしょうか？ 私の心をどう備えたら良いのでしょうか？ 私は何をしたら良いのでしょうか？ あるいは、何を言えば良いのでしょうか？」

第 29 日 関係の癒やし 3

エペソ人への手紙 2 章 13～22 節 「しかし、かつては遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近い者となりました。実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのもの（ユダヤ人と異邦人）を一つにし、ご自分の肉において、隔ての壁である敵意を打ち壊し、……この二つをご自分において新しい一人の人に造り上げて平和を実現し、二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。……このキリストを通して、私たち二つのものが、一つの御霊によって御父に近づくことができます。こういうわけで、あなたがたは……神の家族なのです。……このキリストにあって、建物の全体が組み合わされて成長し、主にある聖なる宮となります。……御霊によって神の御住まいとなるのです。」

エペソ人への手紙 4 章 32 節 「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。」

私の聖餐の体験：今日聖餐にあずかり、罪の赦しを受け取りながら、イエスのことばを覚えて、赦しを解き放ってください。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」

第30日 地の癒やし

サムエル記 第二の21章と24章は、ともに地の癒やしについて語っています。

一つ目の物語では、イスラエルに3年連続の飢饉が起きました。それは、盟約を破って、罪のないギブオン人たちの血を流したことが原因でした。この流血事件に対する宥めを行うためには血が必要となり*、問題の原因を作ったサウル王の、7人の男性子孫のいのちが奪われることになりました。「その後、神はこの国の祈りに心を動かされた」（Ⅱサムエル21:14）。

二つ目の物語では、疫病が3日間発生しました。それは、ダビデの人口調査の罪によってもたらされたものでした。疫病は、ダビデが主のための祭壇を築き、全焼のささげ物と交わり、いけにえを献げたときに止まりました。「主が、この国のための祈りに心を動かされたので、イスラエルへの主の罰は終わった」（Ⅱサムエル24:25）。

両方の出来事において、地が癒やされるためには血が必要でした。今日、私たちは、動物のいけにえや、人のいのちを奪うことの代わりに、イエスの血潮を用いることができます。そして、イエスの血潮を用いる方法として聖餐に優るものはありません。地が汚されたことを知ったら、特に、それが次のような罪による場合、私たちは、聖霊の導きによって、そこに礼拝の祭壇を築き、集団での聖餐を通してそこにイエスの血潮を適用し、その地に癒やしをもたらすことができます。** その罪とは、偶像崇拜、罪のない人の血を流すこと、契約を破ること、昔からの地境を動かすこと、性的不品行です。聖餐の中では、悔い改め、和解、土地や人々を主のために再び聖別することなどに導かれることもあります。

過越の夜の出来事を覚えているでしょうか？ その夜、子羊の血がイスラエル人たちの家の入口の門柱と鴨居に塗られました。その血が、それらの家々と他の家々とを区別するしるしとなり、神がエジプトの神々にさばきを下した際に、それらの家々は、滅ぼす者のわざわいから守られました（出エジプト12:7、12~13）。私たちは、子羊なるお方の血潮を自分の家と財産の上に置いているでしょうか？ 子羊なるお方の血潮を自分の家のために用い、家を主の血潮の下に置く方法として、家でともに聖餐を行うことに優るものがあるでしょうか？ ありません！

主よ、あなたの尊い血潮を感謝します！ あなたの血潮は、人を救い、きよめ、守り、癒やし、いのちを与えます！ あなたの血潮を感謝します！ あなたの驚くべき愛を感謝します！

私の聖餐の体験：本書の冒頭で紹介した出来事のように、聖餐を通して、あなたと主との契約を立て直し、あなたの家とその中のすべてのものを主に献げ、主の導きに従って悔い改め、あらゆる偶像を捨て去ってください。あなたの心と家を、あらためて主に洗いきよめていただき、満たしていただきましょう！

* 民数記 35 章 33 節 「あなたがたは、自分たちのいる土地を汚してはならない。血は土地を汚すからである。土地にとって、そこで流された血は、その血を流した者の血以外によって宥められることはない。」

** レビ記 18 章 25 節 「その地も汚れている。それで、わたしはその地をその咎（レビ記 18 章に書かれた性的罪）のゆえに罰し、その地はそこに住む者を吐き出す。」

イザヤ書 24 章 5～6 節 「地はその住民の下で汚されている。彼らが律法を犯して定めを変え、永遠の契約を破ったからである。それゆえ、のろいは地を食い尽くし、その地の住民は罰を受ける。……」

へブル人への手紙 9 章 22 節 「律法によれば、ほとんどすべてのものは血によってきよめられます。血を流すことがなければ、罪の赦しはありません。」

8. 聖餐のための提案

1. 聖餐のために特別に定めた場所と時間を持つと良いでしょう。例えば、あなたの部屋の特別な一角で、朝一番に聖餐の時を持つのです。毎日、あるいは定期的に、電話などを用いて他の人と一緒に聖餐にあずかることもできます。あなたをイエスに引き寄せてくれる物——例えば、十字架や絵画など——で、あなたの聖餐の場所を飾るのも良いでしょう。
2. 賛美の歌を歌うことから始めましょう。賛美は、あなたの心と霊が主に集中するのを助けてくれるでしょう。
3. こう祈ると良いでしょう。「主よ、あなたと過ごすこの聖餐の時を導いてください。あなたに会わせてください。あなたの声を聞かせてください。」

イエスご自身があなたにパンと杯を渡してくださる様子を思い描いてください。主の御手からパンと杯を受け取ってください。

主に目を向け、主がこう言われるのを聞いてください。「これは、あなたのために裂かれたわたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。この杯は、あなたのために流された、わたしの血による新しい契約です。」主に語り続けていただき、あなたの思いを導き続けていただくようにしてください。

9. おわりに

聖餐は、神からの贈り物であり、喜びです。毎日聖餐にあずかることは、神からの贈り物であり、喜びです。それは、私たちがイエスとイエスの十字架に心を向けることを助けてくれます。私たちはそれによって、毎日、神の御思いとみこころへの軌道修正、主との親密な関係、力づけ、霊的守り、その他たくさんの方の祝福を受け取ることができます。これは律法ではなく、驚くべき特権です。

神は、イスラエルの子らにささげ物を命じられたとき、彼らを祝福したいという思いを持っておられました。そのささげ物とは、毎日の朝と夕のささげ物、毎週の安息日のささげ物、毎月のささげ物、過越の祭り、七週の祭り、ラッパの祭り、宥めの日、仮庵の祭りといった毎年の祭りのささげ物です（民数記 28～29 章）。主は、ご自分の民の生活に、礼拝の聖なるリズムとサイクルを組み込んでくださったのです。それは、彼らが決して、彼らの愛するお方から離れることがないようにするため、そして、人生の複雑さの中で道に迷うことがないようにするためでした。

神に近づくための定まった時間は、神の民のために霊的な周期を作り出し、彼らの周りの霊的雰囲気を作り変えてくれます。そのような時間は、私たちを愛してくださる父なる神の御思いとみこころへと、絶えず私たちを軌道修正させてくれます。聖餐は、新しい契約の贈り物であり、上述の目的のための命令です。手で触れることのできるパンと杯は、私たちがイエスとイエスの十字架に心を向け直すことを助けてくれます。それは、主が私たちの王でいてくださることの宣言となります。それはまた、イエスの死と復活と再臨をこの世界に向かって告げ知らせることであります（I コリント 11:26）！ ですから、個人で、あるいは他の人と一緒に、自分がどれぐらいの頻度で聖餐にあずかったら良いのかを主に尋ねてください。もし主が、毎日聖餐の時間を取り分けるといふ思いをあなたの心に置かれたら、それを軽んじないでください。あなたは祝福されます！ 聖餐にかける時間の長さについては柔軟になってください。取れる時間によって、あるいは聖霊がどう働かれるかによって、短くなったり長くなったりして良いのです！

主は、この小さな書を著す思いを私の心に与えてくださいました。主が来られる前の終わりの時代の困難に立ち向かうためには、神の民は頻繁に聖餐にあずかる必要がある、と感じたのです。私たちが堅く立っているためには、聖餐が与えてくれる、毎日の軌道修正、リニューアル、主との親密な関係、力づけ、守りが必要です。私はまた、クリスチャンたちが使徒の働きのように毎日一緒に集まって礼拝し、パンを裂くことが普通となる時代がきっと来るだろう、と感じています。

「そして、毎日心をつつにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてください。」（使徒の働き 2 章 46～47 節）

そうです。主は毎日、救われる人々を加えてくださり、私たちを主のお帰りに備えさせてくださいます！ アーメン。主イエスよ、来てください！

あなたの聖餐の体験をメールで分かち合ってください。
communion365@gmail.com

附録 1 聖餐に関する聖句

マタイの福音書 26 章 17、26～29 節

さて、種なしパンの祭りの最初の日に、弟子たちがイエスのところに来て言った。「過越の食事をなさるのに、どこに用意をしましょうか。」

また、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。わたしはあなたがたに言います。今から後、わたしの父の御国であなたがたと新しく飲むその日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは決してありません。」

マルコの福音書 14 章 22～25 節

さて、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしのからだです。」また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、彼らにお与えになった。彼らはみなその杯から飲んだ。イエスは彼らに言われた。「これは、多くの人のために流される、わたしの契約の血です。まことに、あなたがたに言います。神の国で新しく飲むその日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは、もはや決してありません。」

ルカの福音書 22 章 7～20 節

過越の子羊が屠られる、種なしパンの祭りの日が来た。イエスは、「過越の食事ができるように、行って用意をしなさい」と言って、ペテロとヨハネを遣わされた。彼らがイエスに、「どこに用意しましょうか」と言うと、イエスは言われた。「いいですか。都に入ると、水がめを運んでいる人に会います。その人が入る家までついて行きなさい。そして、その家の主人に、『弟子たちと一緒に過越の食事をする客間はどこか、と先生があなたに言っております』と言いなさい。すると主人は、席が整っている二階の大広間を見せてくれます。そこに用意をしなさい。」彼らが行ってみると、イエスが言われたとおりであった。それで、彼らは過越の用意をした。その時刻が来て、イエスは席に着かれ、使徒たちも一緒に座った。イエスは彼らに言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと一緒にこの過越の食事をするのを、切に願っていました。あなたがたに言います。過越が神の国において成就するまで、わたしが過越の食事をするのは、決してありません。」そしてイエスは杯を取り、感謝の祈りをささげてから言われた。「これを取り、互いの中で分けて飲みなさい。あなたがたに言います。今から神の国が来る時まで、わたしがぶどうの実

からできた物を飲むことは、決してありません。」それからパンを取り、感謝の祈りをささげた後これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられる、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による、新しい契約です。」

使徒の働き 2章 41～42 節

彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。

使徒の働き 2章 46 節

そして、毎日心をつ一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、

使徒の働き 20章 7 節

週の初めの日に、私たちはパンを裂くために集まった。……

コリント人への手紙 第一 11章 20、23～32 節

……主の晩餐……

私は主から受けたことを、あなたがたに伝えました。すなわち、主イエスは渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげた後それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」食事の後、同じように杯を取って言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」ですから、あなたがたは、このパンを食べ、杯を飲むたびに、主が来られるまで主の死を告げ知らせるのです。したがって、もし、ふさわしくない仕方でパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、主のからだと血に対して罪を犯すことになります。だれでも、自分自身を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。みからだをわきまえないで食べ、また飲む者は、自分自身に対するさばきを食べ、また飲むことになるのです。あなたがたの中に弱い者や病人が多く、死んだ者たちもかなりいるのは、そのためです。しかし、もし私たちが自分をわきまえるなら、さばかれることはありません。私たちがさばかれるとすれば、それは、この世とともにさばきを下されることがないように、主によって懲らしめられる、ということなのです。

コリント人への手紙 第一 10章 16～17 節

私たちが神をほめたたえる賛美の杯は、キリストの血にあずかること*（共有すること、参加すること）ではありませんか。私たちが裂くパンは、キリストのからだにあずかること*（共有すること、参加すること）ではありませんか。

パンは一つですから、私たちは大勢いても、一つのからだです。皆がともに一つのパンを食べるのですから。

*ギリシア語で *κοινωνία* (コイノーニア) : 「交わり」「関わり」「共同体」「聖餐」「共同参与」「親密さ」などを意味する。

コリント人への手紙 第一 5 章 7 節

……私たちの過越の子羊キリストは、すでに屠られたのです。

附録 2 キリストの血潮に関する聖句

私たちが神をほめたたえる賛美の杯は、キリストの血にあずかることではありませんか。私たちが裂くパンは、キリストのからだにあずかることではありませんか。(I コリント 10:16)

そのころは、キリストから遠く離れ、イスラエルの民から除外され、約束の契約については他国人で、この世にあつて望みもなく、神もない者たちでした。しかし、かつては遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスにあつて、キリストの血によって近い者となりました。(エペソ 2:12~13)

また、雄やぎと子牛の血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました。(ヘブル 9:12)

まして、キリストが傷のないご自分を、とこしえの御霊によって神にお献げになったその血は、どれだけ私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者にすることでしょうか。(ヘブル 9:14)

このみこころにしたがって、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけ献げられたことにより、私たちは聖なるものとされています。(ヘブル 10:10)

……あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの、尊い血によったのです。(I ペテロ 1:18~19)

……私たちを愛し、その血によって私たちを罪から解き放ち、また、ご自分の父である神のために、私たちを王国とし、祭司としてくださった方に……(黙示録 1:5-6)

……私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。イエスのご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。(ヘブル 10:19~20)

……あなたがたが近づいているのは……すべての人のさばき主である神、完全な者とされた義人たちの霊、さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る、注ぎかけられたイエスの血です。(ヘブル 12:22~24)

動物の血は、罪のきよめのささげ物として、大祭司によって聖所の中に持って行かれますが、からだは宿営の外で焼かれるのです。それでイエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。(ヘブル 13:11~12)

永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを、死者の中から導き出された平和の神が……(ヘブル 13:20)

父なる神の予知のままに、御霊による聖別によって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人たちへ。恵みと平安が、あなたがたにますます豊かに与えられますように。(I ペテロ 1:2)

もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。(I ヨハネ 1:7)

イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。(ヨハネ 6:53)

……気を配りなさい。神がご自分の血をもって買い取られた神の教会……(使徒 20:28)

神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。……(ローマ 3:25)

ですから、今、キリストの血によって義と認められた私たちが、この方によって神の怒りから救われるのは、なおいっそう確かなことです。(ローマ 5:9)

このキリストにあって、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。……(エペソ 1:7)

なぜなら神は、ご自分の満ち満ちたものをすべて御子のうちに宿らせ、その十字架の血によって平和をもたらし、御子によって、御子のために万物を和解させること、すなわち、地にあるものも天にあるものも、御子によって和解させることを良しとしてくださったからです。あなたがたも、かつては神から離れ、敵意を抱き、悪い行いの中でしたが、今は、神が御子の肉のからだにおいて、その死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。あなたがたを聖なる者、傷のない者、責められるところのない者として御前に立たせるためです。(コロサイ 1:19~22)

そういうわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、死の恐怖によって一生涯奴隷としてつなわれていた人々を解放するためでした。(ヘブル 2:14～15)

彼らは新しい歌を歌った。「あなたは、巻物を受け取り、封印を解くのにふさわしい方です。あなたは屠られて、すべての部族、言語、民族、国民の中から、あなたの血によって人々を神のために贖い、私たちの神のために、彼らを王国とし、祭司とされました。彼らは地を治めるのです。」(黙示録 5:9～10)

……この人たちは大きな患難を経てきた者たちで、その衣を洗い、子羊の血で白くしたのです。(黙示録 7:14)

……今や、私たちの神の救いと力と王国と、神のキリストの権威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、昼も夜も私たちの神の御前で訴える者が、投げ落とされたからである。兄弟たちは、子羊の血と、自分たちの証しのことばのゆえに竜に打ち勝った。彼らは死に至るまでも自分のいのちを惜しまなかった。(黙示録 12:10～11)

聖書 新改訳 2017 ©2017 新日本聖書刊行会

